令和６年度斐伊川水系大橋川河川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査（松江城下町遺跡白潟地区）にかかる出土金属製品保存処理業務委託仕様書

1．業務対象資料

別添資料リストのとおり

2．業務場所等

○保存処理作業の全工程について、原則、受託者の自社内施設で行うものとする。ただし、保存処理業務上で分析を第三者に委託する、あるいは分析のために資料を外部施設へ搬出する必要がある場合は、あらかじめ委託者から書面による承諾を得たうえで行うことができる。

3．業務管理者・従事者

受託者は本件業務にあたり以下の基準を満たす業務管理者・従事者を配置すること。なお、ここでいう業務管理者とは本件業務において技術的な作業指示や点検・管理を行う者のことをいい、従事者は業務管理者のもとで保存処理作業に直接従事する者のことをいう。

○業務管理者は、文化財（金属製品）保存処理業務について５年以上従事経験があること。

○業務管理者あるいは従事者のいずれかが有機溶剤作業主任者の資格を有すること。

○受託者は、業務着手にあわせて業務管理者・従事者届を提出すること。

4．作業内容及び工程

出土金属製品は埋蔵環境において、土中から錆の要因となる塩分を多く取り込んでおり、非常に脆弱で、出土後も錆が進行するため、脱塩、樹脂含浸などの保存処理を施し、防錆、強化する。保存処理に用いる材料は可逆性を有するものとする。

○引渡・処理前作業

島根県埋蔵文化財調査センター（以下、「埋文センター」）担当職員が立会い、品目、状態、作業方針を確認した後、出土品に破損・変質・劣化がないように、美術品梱包またはそれに準ずる方法で梱包し、作業施設へ運搬する。

保存処理前の写真記録をとるとともに、X線撮影などで遺物の構造や付着物を把握する。

○保存処理工程

（1）クリーニングⅠ

ニッパー、メス、エアブラシ、小型グラインダーなどを用いて、砂や泥、不要な錆などの出土品に伴わない付着物を取り除く。

木質などの有機質のように、作業中に損壊の恐れがある部分はアクリル樹脂を滴下して強化しておく。

作業により破損の恐れがある部分は、クリーニングⅡで除去する。

（2）洗浄

有機溶剤に浸漬し、表面に付着する油脂や土砂などの不純物を除去する。強化に用いたアクリル樹脂が溶解しないように注意する。

保護材を取り付け、処理中の破損、破片の散逸を防ぐ処置をとる。

（3）脱塩処理

鉄製品はアルカリ溶液や高温高圧脱酸素水など脱塩処理方法として実績があり、それぞ

れの遺物に適した方法で溶出させる。

青銅製品はベンゾトリアゾール溶液で安定化させる。

(4)樹脂含浸Ⅰ

処理後の保管も含めて遺物に影響のないアクリル樹脂を、1回減圧含浸する。

保護材を取り付け、処理中の破損、破片の散逸を防ぐ処置をとる。

(5)クリーニングⅡ

クリーニングⅠで除去できなかった錆などを取り除く。

(6)樹脂含浸Ⅱ・Ⅲ

処理後の保管も含めて遺物に影響のないアクリル樹脂を、2回減圧含浸する。

保護材を取り付け、処理中の破損、破片の散逸を防ぐ処置をとる。

(7)仕上げ・接合・復元

防錆効果を上げるため、遺物表面に含浸に用いた樹脂を低濃度で3回塗布する。

接合が可能な破片は接合する。

補強が必要な部分は、後に取り除くことが容易な樹脂を用いて補填し、違和感がない程度の整形及び彩色をする。

アクリル樹脂の艶を抑える処置をする。

○処理後作業・納品

接合関係や色調などを処理前の記録と比較、確認し、写真記録をとる。

保存処理後の出土品に破損・変質・劣化がないように、美術品梱包またはそれに準ずる方法で梱包し、埋文センターへ搬入する。

埋文センター担当職員が立会い、保存処理前後の記録(写真・X 線写真・分析結果など)・保存処理報告書によって品目、状態、作業内容の確認を行う。

確認完了後、これらの記録資料は出土品とともに納品すること。

※デジタル画像の場合

処理前後の記録写真はA4サイズで解像度350dpi以上とする。

画像は、出土品の状態が確認できるサイズに印刷したものおよびデータとする。

出土品に破損・変形等の異常が認められた場合は差し戻しとし、適切な処理を施して契約期間内に納品すること。

○作業工程中の協議

以下の事柄が生じた場合は作業を中断し速やかに埋文センター担当職員に連絡し、後の対応について協議する。

・引渡時に確認した作業方針とは異なる作業が生じる場合

・引渡時に確認した作業方針に加えて、分析等が必要となる場合

・処理前調査・工程(1)(5)(7)などで新たな知見が得られた場合

・出土品の破損などの事故が生じた場合

・その他、協議の必要性が生じた場合

○保存処理報告書

作業内容・作業中に得られた知見・工程毎の作業状況写真・使用材料を明記した保存処理報告書を作成すること。

5. 瑕疵担保

品質を確保するため、成果物に瑕疵があるときは、瑕疵担保責任を求めることができるものとする。

【埋文センター保管環境】

温度：20～25℃

湿度：50～55％